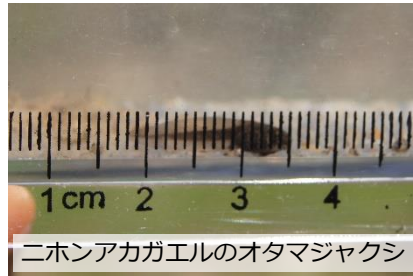


愛知県の緊急事態宣言が2月28日から解除となり、今年最初の自然観察会をようやく実施することができました。前回12月の観察会から季節が大きく進み、随所に春の訪れのサインを見つけながら歩きました。

大坂池の北の**アズキ**が満開でした。アズキには小さい実がなると話す人がいましたが、品種の違いのせいでは、ということになりました。2月に**ニホンアカガエル**の卵塊を確認していたオタマジャクシ池では、子どもたちがすぐに次々と**オタマジャクシ**を見つけました。池の周辺では**ナナホシテントウ**も見つかりました。その後もたくさんのナナホシテントウが見られましたが、ナミテントウは1匹も見かけませんでした。



アズキ



ニホンアカガエルのオタマジャクシ



ナナホシテントウ

中道沿いには**モチツツジ**や**ヤマツツジ**がつぼみをつけていました。モチツツジはまだ固いつぼみの状態でしたが、さわってみると粘り気を感じました。「写真に撮って拡大してみると粘り気のもとが見えるはず」と言う参加者があり、写真を大きくしてみると、言われたとおり粘り気の正体である「腺毛」が写っていました。ヤマツツジの方は鮮やかに赤く色づいたつぼみがふくらんで、もう少しで咲きそうな様子でした。



モチツツジのつぼみ



モチツツジのつぼみ(拡大)



ヤマツツジ

道端の**ヤエムグラ**を子どものセーターにくっつけてみると簡単につきました。写真を拡大すると**葉の表にも裏にも無数のトゲ**が見られました。茎をとり囲むようについた葉の数を数えてみると6枚から8枚でした。



洋服についた  
ヤエムグラ



ヤエムグラの葉(表)



ヤエムグラの葉(裏)

続いて「**検土杖(けんどじょう)**」という聞き慣れない名前前の道具が、地中の調査をするものと紹介されました。足元の地面に刺して、参加者が交代で**土の中に差し込んで**いきました。引き出すと地中奥深くの土が採取できましたが、今回**採取された土**の様子は上下であまり変化がありませんでした。1月から畑の奥で確認されている**タデジマカミキリ**はまだ同じカクレミノにしがみついており、活動を開始していないようでした。



検土杖を土に差し込む



検土杖で採取された土



タデジマカミキリ



畑の西側の雑木林の中で**コバノミツバツツジ**の花を見つけました。咲いている花はまだほんの少しでしたが、つぼみがたくさんついていました。つどいの丘のウメの木では、樹皮に**タマカタカイガラムシ**の幼虫がびっしりとついていて、それをエサとする**アカホシテントウ**の成虫も見られました。**ヒサカキ**は雌雄異株とされているが実際には1本の木に両性の花が咲いているものもあると紹介され、湿地の近くで咲いていた雌花を観察しました。



コバノミツバツツジ



交尾中のアカホシテントウ



ヒサカキの雌花

水辺では**タネツケバナ**が花をつけていました。すぐそばで**ミチタネツケバナ**も見つかり、両者の違いを観察することができました。ミチタネツケバナは花が終わった後の果実が真上に向かってへ伸びているので容易に見分けられました。その近くでは草丈がまだ10cmほどの**ハルジオン**が、ピンク色のつぼみをほころばせていました。



タネツケバナ



ミチタネツケバナ



ハルジオン

子どもたちが**ツクシ**採りに夢中になり、中には持ってきた虫かごを一杯にする子もいました。**オオイヌノフグリ**も花盛りで、あたり一面に咲いていました。水網を使って**カゲロウ**の仲間の幼虫を採っている子どもがいて家で飼育しているトンボのヤゴのエサにすると話していました。ヤゴの中には生餌しか食べない種があるそうです。



ツクシ

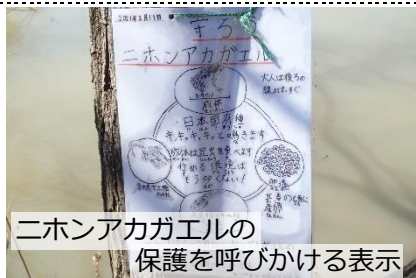


オオイヌノフグリ

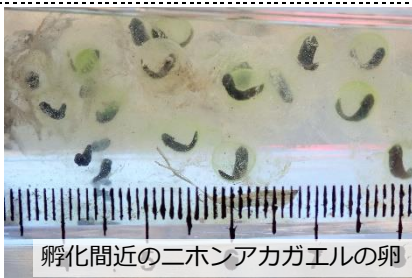


カゲロウの仲間の幼虫

**二ホンアカガエル**の数の減少を心配して、**保護を呼びかける表示**が施されていました。観察した卵は孵化まであと少しのように見えました。二ホンアカガエルは平地に生息し、近年水田の宅地化などの影響を受けて数を減らしているそうです。もう少し標高が高い所に棲むヤマアカガエルとよく似ており、成体ではほとんど見分けがつかないそうです。しかし**オタマジャクシ**の識別は簡単で、そのポイントは背中中の1対の黒点とのことでした。



二ホンアカガエルの保護を呼びかける表示



孵化間近の二ホンアカガエルの卵



二ホンアカガエルのオタマジャクシの識別ポイント

平和公園での観察項目(観察順)：アンズ、二ホンアカガエルのオタマジャクシ、アメンボ、シュンラン、ミモザ、マンリョウ、テングチョウ、ルリタテハ、ツクシ、カエルの卵の保護を呼びかける看板、二ホンヌマエビ、モチツツジ、ヤマツツジ、ヤエムグラ、検土杖、ヒメオドリコソウ、ネジキ、ナナホシテントウ、タデジマカミキリ、カクレミノ、ゲジ、センチコガネ、コバノミツバツツジ、アカホシテントウ、タマカタカイガラムシ、ウメ、オオイヌノフグリ、コガタリハムシ、タネツケバナ、ミチタネツケバナ、ハルジオン、ヒサカキ、五つ葉のクローバー、カゲロウの仲間の幼虫、二ホンアカガエルの卵塊、ミツバチの巣箱